

3-8 農業農村の役割

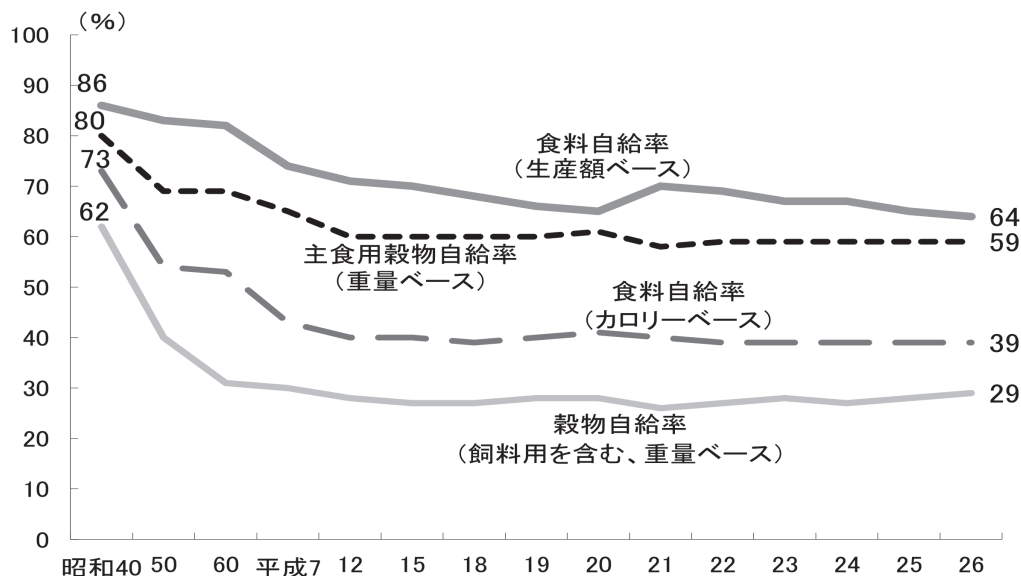
- 農業から生産される食料は私たちの生活にとって身近なものであり、生命と健康の源です。
○農業・農村は、食料供給のほか、国土・水資源・環境・文化・教育など、現代社会の様々な課題の解決に貢献する多面的な機能や役割を持っています。

1 安定的な食料供給

我が国の食料自給率（カロリーベース）について、昭和40年は73%でしたが、平成10年には40%まで低下し、その後は横ばいで推移しています。

本県の総合食料自給率は、平成25年（概算）はカロリーベースで59%、生産額ベースで154%となっています。また、主要品目の自給率は全国に比べて高く、本県は食料供給県となっています。

食料自給率の推移（全国）



（資料）農林水産省「食料需給表」

熊本県の食料自給率の推移

区 分	単位	7年	12	17	22	23	24	25
カロリーベース 総合食料自給率	%	—	61	58	61	61	58	59
生産額ベース 総合食料自給率	〃	—	154	152	155	152	159	154
米	〃	179	156	148	163	158	152	152
小麦	〃	11	16	20	10	15	14	15
大豆	〃	6	10	6	9	10	9	8
野菜	〃	275	276	264	283	278	296	290
果実	〃	145	137	133	115	116	120	124
牛乳	〃	224	238	257	244	253	253	252
牛肉	〃	141	131	191	179	170	182	182
豚肉	〃	146	143	118	116	117	116	127
鶏卵	〃	143	139	112	106	114	120	125

（資料）農林水産省「生産農業所得統計」、「作物統計」、「食料需給表」、総務省「国勢調査」

（注）総合食料自給率（カロリー・生産額）は国公表値（平成10年から公表）

品目別自給率（重量ベース）は県算出（国内品目別自給率×県内生産量（額）割合÷県人口割合）

・牛乳は飲用向けとし、国内自給率を100%として計算

・米・麦・大豆は生産量で試算。その他品目は農業産出額により試算した。

2 多面的機能の発揮

農業・農村は、洪水の防止や水資源のかん養、自然環境の保全、さらには美しい景観の形成など、様々な機能（農業・農村の多面的機能）を有しており、国土を保全し、生命と財産、豊かな暮らしを守る重要な役割を担っています。

農業・農村の多面的機能のイメージ



農業・農村の多面的機能の評価（試算）（単位：億円／年間）

機能	全国	熊本県	構成比
洪水防止	34,988	1,277	52.6%
河川流況安定	14,633	309	12.7%
地下水かん養	537	9	0.4%
土壌侵食防止	3,318	78	3.2%
土砂崩壊防止	4,782	134	5.5%
有機性廃棄物処理	123	4	0.2%
気候緩和	87	2	0.1%
保健休養・やすらぎ※	23,758	613	25.3%
合計	82,226	2,426	



※「保健休養・やすらぎ」については、全国の評価額を耕地面積比で按分。
全国欄は、日本学術会議が行った農業の多面的機能の評価

白川中流域の水田地帯における湛水（地下水かん養）の状況

地域社会の形成・維持

○保養・教育・医療・福祉への効果

農業や農村空間は、人々に憩いの場、レクリエーションの場を提供しています。また、食料生産の場であるとともに、それをとりまく自然の大切さなどを学ぶ、体験学習の場としての役割や、医療や福祉のケアを必要とする方々への良好な効果をもたらす機能も有しています。



棚田のあかり（水俣市）



都市と農村の交流（人吉市）